

事務事業名	菅谷たたら山内管理事業		所属部	吉田総合センター	所属課	市民サポート課	
総合計画体系	政策名	〈IV〉ふるさとを学び育つまち〈教育・文化〉		所属G	市民サポートG	課長名 渡部 一雅	
	施策名	〈31〉地域文化の振興		担当者名	田浪 文雄	電話番号 0854-74-0211 (内線) 4415	
	目的対象	市民	意図	地域文化を正しく理解し、文化財の保護と活用に努めるとともに、文化芸術に親しみ創造する。			
	基本事業	〈089〉地域文化の保存継承		予算科目	会計 款 大事業 大事業 0:150:0:1	事業名 社会教育施設管理事業	
目的対象	市民	意図	地域文化を次世代に伝える。			中事業 中事業 2:51:0:1:5	事業名 菅谷たたら山内管理事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
市民	・市内外の方や次世代を担う小中学生が現存する文化遺産に触れ、たたら製鉄等についての理解を深め、関心が高まる。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H16 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	・指定管理業務 ・施設修繕 ・関係部局との協議を行い、文化財の保護と活用に努める。
④ 主な活動 R4年度実績(R4年度に行った主な活動)	⑤ これまでの改革・改善経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
・指定管理業務 ・関係部局との協議 ・大銅場屋根修繕	・R2年度指定管理料の見直しを行った。 ・指定文化財を多く取り扱うため、教育委員会と連携を取りながら施設や資料の管理について検討を行っている。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R2年度(実績)	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(計画)
ア 施設入館者数	人	3,767	4,676	6,972	9,000
イ 内、小中学生の入館者数	人	369	364	597	700
ウ 指定管理団体の自主事業件数	件	1	3	1	1
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R4年度決算)		② コストの推移		単位	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(計画)
委託料(指定管理料)	9,605千円	財源内訳	国庫支出金	千円				
修繕費(大銅場屋根)	748千円		県支出金	千円				
			地方債	千円				
			その他	千円				956
			一般財源	千円	10,168	9,605	10,353	10,182
		事業費計	千円	10,168	9,605	10,353	11,138	

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	・施設及び資料を公開し、来館者のたたら製鉄についての理解が深まった。
② 事業実施するうえでの課題	・指定文化財となっていない施設の老朽化。(大銅場、山内生活伝承館、高殿公衆便所棟) ・保存修理工事完了後の文化財の展示や活用方法について検討が必要。 ・入館料について関係部局の協議が必要。 ・文化財の取扱いについて、専門的な知識が必要であり、所管課から指定管理者へ指導や助言ができない。
③ 課題解決に向けた改革改善等	・市は引き続き施設の維持に努め、修繕が必要なところは優先順位をつけて対応していく。 ・保存修理工事はR4年度末完了した。展示や活用方法、入館料について、R5に協議する予定。